

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	Gripキッズ行徳校		
○保護者評価実施期間	令和8年1月28日		～ 令和8年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	68名	(回答者数) 42名
○従業者評価実施期間	令和8年3月1日		～ 令和8年3月17日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13名	(回答者数) 13名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月19日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	五領域に渡る学習、運動、日常生活のトレーニング、体験型特別プログラムの4つの柱をもとに行う多彩なプログラム	五領域ごとに数十種類のプログラムがあり、それぞれのシートも作成している。シートを使用することにより療育の「見える化」を行うことで、保護者の方がシートを見て家でも実践できるようにしている。プログラムは低学年のお子さんでもゲーム感覚で楽しく遊びながら学べるように取り組んでいる。	様々なプログラムを通して経験を積み重ねることで、お子さんの得意なことを一つでも多く見つけて、自信に繋がれるよう努めている。 また学年が上がってきているので、より高学年向けのプログラムも充実させていく。
2	専門的な理科実験や、充実した祝日イベントの提供	集団プログラムの一環で小学校高学年で習うような内容の理科実験を行う場を設けている。低学年のお子さんでも目で見て分かりやすく、あまり難しい言葉を使わずに説明することで興味を持って取り組めるよう工夫している。 また祝日イベントでも同様に実験の他、外出やお菓子作りなど、子どもたちに楽しんでもらえるようなイベントを企画している。	年に一度、家族参加型の祝日イベントを実施しているが、今後も内容を拡充してより多くの方に参加していただけるよう工夫していきたい。
3	学習の習慣を身に付け、学力の定着を図る支援	まずは学習の習慣を身に付けられるよう、療育時間中に学習の機会を必ず設けている。こまめに保護者の方と情報共有を行い、お子さんの学習状況を把握し、適切な教材を用意している。課題はスモールステップでクリアできるよう工夫し、大いに褒めることで子どもたち自身に「できた!」という達成感を味わってもらえるよう努めている。	基本的な科目だけに留まらず、子どもの興味関心や保護者の方のご要望にお応えし、幅広い学習に対応できるよう努める。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との連携の機会が少ない	学校や他事業所、相談支援事業所など、子どもたちや保護者の方が直接関わるところでは連携が取れているが、現状では地域との関わりや交流の機会があまりない。	保護者の方や子どもたちからのご要望に応じて、積極的にその機会を増やせるよう、事業所としての情報発信に努める。
2	父母の会や保護者会など、保護者同士の方が関わる機会が少ない	年に一度家族参加型のイベントを企画して、保護者同士の交流の場を設けているが、参加される方はごく一部に留まっている。	現状と照らし合わせて、ご要望に応じて可能な限り家族参加型のイベントなどを設ける機会を増やす。また、気軽に参加していただけるように積極的に周知を行う。
3			